

尾道市新公立病院改革プラン評価委員会の評価・意見等
(平成30年度分)

II 公立みつぎ総合病院

- ◆医師の確保は病院の基本である。医師の確保に引き続き努力してほしい。
- ◆収支面を中心とした評価になりがちであるが、地域医療構想を踏まえた公立みつぎ総合病院の果たすべき役割に関する部分が、地域においてどれくらい達成できているのかといった視点での評価も大切ではないか。

【参考】地域医療構想を踏まえた病床機能の再編について

公立みつぎ総合病院の特色の一つである(回復期)リハビリテーション機能を十分に発揮するなど、地域において包括ケアを引き続き実践しシームレスなサービスを提供していくことが、公立みつぎ総合病院の果たすべき役割であることから、平成29年度に急性期一般病床7床を回復期リハビリテーション病床へ機能転換した。(プランでは、急性期一般病床30床を回復期リハビリテーション病床へ機能転換する計画であったが、外科医師の増加による急性期及び回復期の病床数のバランスを考慮する中で、機能転換は7床のみとした。)

平成30年3月まで…一般病床152床、療養病床88床(うち回復期リハビリテーション病棟65床)

平成30年4月以降…一般病床145床、療養病床95床(うち回復期リハビリテーション病棟72床)

① 入院延患者数

平成28年度…75,512人、29年度…76,223人、30年度…78,305人

② 入院単価

平成28年度…32,956円、29年度…33,247円、30年度…33,810円

※入院患者数については、平成29年度に外科医師が増員となり、年度末には病床再編が終了したことにより、順調に増加しており、地域における受け入れ人数の増加につながっている。また、外科医師の増員や病床再編による効率的な運用が可能となったことから、入院単価の増加にもつながっている。